

7.2 序にかえて

知多市の躍進発展ぶりは、誠に目覚ましく際立ったものがあり、この勢いは今後とも一層盛んになり、とどまることはないと思っております。

こうした折、忘れ去り、消え失せてしまわれそうな過去の種々を、収録して後世に遺しておくことは、極めて大切なことである。それを果すのは、高年配者の責務ではなかろうか。

こういうことから、昭和五十七年二月、有志の者が集って八幡公民館を拠点として、「八幡の語り草」編集委員会が設けられました。委員各位の積極的な努力により、原稿や資料が収集され、ここ 158 点を採録することができました。未収のものが数多くあると思いますが、一応の区切りをつけました。

市当局で行われている市誌編纂関係では、取り扱いかねる内容のものを収録するようにしてきましたので、中には、荒唐無稽の誇りをうけるものとか、記憶の誤りからの矛盾をはらむものとかがあるかと思っています。それぞれ編集委員会で検討を重ね、修正の手も加えました。しかし、完璧とまでは言えません。御了承の程、お願いします。

本誌のために、貴重な原稿や得難い資料を寄せて下さった皆さんに心からお礼を申し上げます。編集委員会の折に、原稿等に目を通し易いように、タイプ印刷にしましたが、その作業に協力していただいた方々に厚く御礼申し上げます。なお、二十数回に及んだ編集委員会に、繰り合せて奉仕してくれました委員各位に衷心から感謝申し上げます。

終りになりましたが、編集委員会発足当時の八幡公民館長畑中傳氏は、本年三月末でその職を退かれたが、われわれの懇望を容れて、今日まで編集用務に当たってくれました。公民館職員各位の御協力もいただきました。ともどもに、深甚の謝意を表する次第であります。

昭和五十八年 文化の日
「八幡の語り草」編集委員長 平 松 五 祐